

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	小谷亜由美・高原照直
		発行人	服部束穂
		印刷所	株式会社 クイックス

同窓会の「ネットワーク」を大切に思う

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 川北 一人

名古屋大学農学部同窓会員の皆様には、日頃から農学部および大学院生命農学研究科の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、お礼申し上げます。またこの春に卒業・修了を迎えた皆様に心よりお祝い申し上げます。

昭和26年に農学部が創設されて以来、今年は65年目の年を迎えます。この間、大学を取り巻く諸状況は大きく変わりました。平成16年度に国立大学が法人化されたことに伴い、平成28年度からは第三期中期目標・中期計画期間となります。6年ごとに大学が目標と計画を立て、国が評価する仕組みです。「大学改革」が国・文部科学省の重要課題として位置づけられ、第一期がホップ、第二期がステップ、第三期がジャンプにあたると言われています。すなわち、各大学にとっても、また研究科・学部にとっても大きな転換点にさしかかっています。松尾清一名古屋大学総長は「名古屋大学松尾イニシアティブ NU MIRAI 2020」を昨年7月に作成し、世界水準の教育、世界最先端の研究の推進、国際化の推進、産学官連携の推進、といった達成目標を設定しています。これに呼応する形で研究科・学部も明確な目標設定が求められています。

大学改革では、イノベーション、グローバル化、社会実装という課題が重要視されています。大学の使命である人材育成という観点からみると、イノベーション人材とは、幅広い基礎科学の知識と深い専門性に加えて、分野融合的な新分野を創造することができる人材であるといえます。また、グローバル人材とは、異文化交流を通じて、多様な意見と価値観を尊重できる多文化共生を学び、地球規模の視野とマインドを持った人材であると考えます。

名古屋大学は、文部科学省「スーパーグローバル大

学創成支援」事業による国際的な教育・研究の展開を進めています。留学生の受

入や日本人学生の留学支援に加え、国際的な教育の質保証プログラムの柱として、海外の主要大学と共同で学位を授与するジョイントディグリープログラムが平成27年度から開始されました。生命農学研究科でも、タイのカセサート大学とプログラムの平成29年開始を目指して準備を進めています。また、「博士課程教育リーディングプログラム」は博士課程前期から後期課程まで一貫した教育支援事業ですが、生命農学研究科でも、国際的なリーダーとなる資質の獲得を目指す学生がそれぞれのプログラムに積極的に参画しています。名古屋大学はまた、欧米の大学のみならずアジア諸国の大学との連携を強化し、「アジアと共に学び、世界に挑戦する」という目標を掲げています。平成26年10月から開始したアジアサテライトキャンパスの設置は7カ国に及び、生命農学研究科もカンボジア、フィリピン、ラオスキャンパスの展開に参画しています。相手国の政府機関に在職する中枢人材を対象として、博士学位取得に向けた教育研究を現地で開催しており、将来的に大学・政府機関との交流・連携を目指しています。

このような国際化プログラムの開始・推進にあたって、各国の名古屋大学同窓生の方々により多大な尽力をいただいています。例えば、名古屋大学同窓会タイ支部長のアピナン氏、フィリピン支部長のコリアード氏は農学部同窓生です。カセサート大学やフィリピン大学との交流も30年以上にわたり、齋藤哲夫元農学部長を初め諸先輩・同窓生により築かれたネットワークの礎があってこそ現在のプログラム構想は成し得たこ



とであります。

教育研究交流は国際関係に限ったことではなく、大学の研究成果を国内外の社会に広く浸透させるための産学官連携が今日強く求められています。大学のシーズを活用するオープンイノベーションなど、企業や公的機関からも今まで以上に大学との密な交流が望まれています。また、在学する留学生および日本人学生にとって、インターンシップや研修といった実践的体験

は自身の将来を考える上で絶好の機会であります。これらの活動を進める上で、各方面で活躍されている同窓生の皆様が、生命農学研究科・農学部との繋がりを強め、同窓生の間のネットワークを活かしていただくことが何より重要であると考えています。また、在学生の学業を支援する各種奨学金制度の充実が切に望まれております。次世代を育成するという視点からの支援もお願い申し上げます。

農学部同窓会会長挨拶

服部 束穂（昭和53年農芸化学卒）

農学部同窓会会員の皆様、それぞれの分野でのご活躍をお慶び申し上げます。また、平素よりの皆様の同窓会へのご支援に感謝いたします。そして、この3月に学部・研究科を卒業・修了される皆様、お祝い申し上げますとともに、同窓会への入会を歓迎いたします。私は、昭和53年農芸化学科卒業以降も大学院、そして教職員と、間13年を除いて名古屋大学に身を置いています。現在の所属は生物機能開発利用研究センターという全学研究施設ですが、そのルーツは農学部附属研究施設であった生化学制御研究施設にあります。現在も殆どの教員は農学部や生命農学研究科の教育を担当しています。

昨年は天野先生のノーベル賞受賞で名古屋大学はひととき注目を浴び、全学同窓会あるいは各支部主催の講演会が開かれました。違う学部のことであり、大学に在籍した年代も違い、天野先生と直接の関わりはないにもかかわらず、私たちは母校のこととして、より喜ばしく、そしてより誇らしく感じたのではないのでしょうか。またノーベル賞ではなくても、農学部・生命農学研究科での研究について新聞報道があれば、農学部出身の私たちは他の人々とは違う何かを感じるのではないのでしょうか。「それがどうしたん？」と問い

つめられれば崩れてしまいそうな、淡い感情ですが、つきつめれば同窓会というコミュニティの役割は、こんな素朴な感情を共有する人々をしっかりと繋ぎ止めておくことにあるのではないかと思います。同窓の意識はそれだけで、新たな人と人の関係を生み出す十分なきっかけを提供してくれます。このような関係性を活かして、会員それぞれが世代を超えたネットワークを拡げていく、これを通して社会的あるいは個人の活動をより実りあるものにしていく、その手助けになるのが同窓会なのだと思います。また、同窓会は学部・研究科と半ば公につながっていることから、社会におられる皆様との橋渡しとしてもその役割は大きいと思われれます。このように同窓会の意義について思いをめぐらしていくと、会報を通じて農学部の今日状況をお知らせすること、総会や支部活動において出会いの場を提供することなどの地道な活動をしっかりと維持していくことの大切さと責任を改めて感じます。個人情報の扱いがとても難しい今日にあって、しっかりした名簿を定期的に編纂し続けることはとても大事なことだと思います。農学部同窓会へのさらなるご理解とご協力を賜れば幸いです。

平成28年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会のご案内

平成28年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。懇親会、講演会のみ参加も歓迎いたします。

○期 日：平成28年 6月 4日 (土) *名大祭期間中*

○総 会

時間：午後 2時～ 3時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○講演会

富山大学大学院医学薬学研究部 (医学) 教授

井ノ口 馨 氏 第24回 (昭和53年 3月) 農学部農芸化学科卒

『記憶をコントロールする』

あなたの記憶は、本物ですか!? 記憶がどのような仕組みで脳内に蓄えられるのかを分かりやすくお話しします。いまや、異なる古い記憶を人為的に組み合わせ、新しい記憶を作り出すことができるようになりました。トラウマ記憶の抑制など、「記憶の医学」に挑む脳科学の最前線にも触れます。実際には経験していない記憶を作ること成功した人類は、どこへ向かうのか——。SF世界を彷彿させる最新の脳科学に迫ります。

井ノ口先生は次のような一般向け読み物も執筆されています。

井ノ口馨：記憶をあやつる、角川選書、角川書店 (2015)

井ノ口馨：記憶をコントロールする—分子脳科学の挑戦—、岩波科学ライブラリー、岩波書店 (2013)

時間：午後 3時～ 4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○懇親会

時間：午後 4時30分～ 6時30分

場所：名古屋大学内 “レストラン花の木”

会費：1,000円

同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会総会を機に、久しぶりに農学部に集まって同窓会を開催しませんか? 農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

卒業生の言葉

名古屋大学卒業を迎えて

生物環境科学科 森林資源利用学研究分野 太田 朱音

卒業を目の前にした今、私は、この5年間で得た知識、経験、教訓は人生の中で最も貴重で素晴らしいものであったと感無量であるとともに、このような機会を提供して下さった大学、特に講義や研究室で指導していただいた先生方、共に学んだ仲間、そしていつも応援してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

講義や実験実習では、知識や実験手法を身に着けるだけでなく、日本の森林や林業の実態をみることができました。研究室では自由に国際的な雰囲気の中、個性的な先生方やメンバーと研究に取り組むことができ、非常に得るものが大きかったです。大学院出願と卒業論文との両立がとても大変でしたが、自己管理を学ぶ良い機会となりました。学生同士だけでなく、経験を積んだ先生方や事務の方、他の研究室の方と広く交流を持つことができ、研究内容はもちろん、それ以外の雑談などからも、毎日が教わることばかりで楽しかったです。

学内での学習以外にも、高校生のときからの夢であった交換留学を実現できたことが大学での大きな達成の一つです。文字通り“視野が広がった”し、考え方や自分の文化、世界や他人への目も大きく変化しました。若いうちにこのような大きなインナーの変化を経験でき、うれしく思います。その経験を生かし、帰国後は世界学生フォーラムや特別講義などに積極的に参加することができ、スキルをさらに磨くことができたことは、名古屋大学の充実したプログラムのおかげです。

卒業後は、米国の大学院に進学し、森林生態について研究をする予定です。言語の壁と競争の厳しさによるハードシップは多大なものになると思いますが、少しでも地球環境問題解決に貢献できるような人材になりたいと思います。私が在籍した5年間で名古屋大学は大きく変わりました。今後も私が受けた以上のハイレベルなプログラムを学生に提供し続けてくれることを期待します。



卒業するにあたって

資源生物科学科 循環資源学研究分野 升迫 翔太

大学に入学してからたくさんのご経験しました。実家から離れた見知らぬ場所での一人暮らし、アルバイトを通してお金を稼ぐことの大変さに親のありがたみというものを痛烈に実感させられました。勉学においては高校までの、問題集を解くなどの答えが明確に用意されたものとは違ってわかり、答えを自分で考え、探求することの難しさに頭を悩まされました。優秀ではない自分が無事に大学を卒業することができるのは、ひとえに両親の援助、定期テストの時には自分に勉強を教えてくれた友人、研究では助言・助力をしてくださった先輩、先生方のおかげです。

この4年間で本当にいろんな経験をしてきましたが、中でも自分の価値観や人生に大きな影響を与えたのは部活でした。最初は軽いノリで入ったラクロス部という場所で、かけがえのない友人、頼りになる先輩方、世話の焼けるかわいい後輩たちに囲まれて大学生活の大半を部活に費やしました。朝6時に起きて朝練に行ったこと、居残り練習、自主練、夜遅くまでのミーティング、夏の気温38℃の中、冬の雪が降る中凍えながら練習することなど入学時は全く想像していませんでした。部活を辞めようと思ったことは1度や2度ではありません。しかし、日本一のチームになるという目標を掲げて努力する仲間の姿を見るたびに負けたくない、中途半端に投げ出さたくないという思いが湧いてきました。日本一を目指して努力し、頭を悩ませることはそうそう経験できることではないと思います。いったいどれだけの人が日本一を目指したことがあるのでしょうか。本気で日本一を志す仲間と囲まれ、切磋琢磨することができたこの4年間

の日々は何にも代えがたいものであると確信しています。改めて、こんな素晴らしい4年間を過ごすことができたのは両親、学部の友人たち、研究室の先輩方、ご指導していただいた先生方、そして部活を通して得た最高の仲間たちのおかげです。ありがとうございました。



の人に恩返しができるばよいと思います。

最後に、卒業するにあたって、ずっと今まで自分を支えてくれた家族をはじめとするすべての人に感謝したいと思います。ありがとうございました。



たくさんの出会い

応用生命科学科 生物有機化学研究分野 宮坂忠親

早いもので、僕の大学生活も残りわずかとなりました。僕のこの四年間にはたくさんの出会いがありました。学部の友達やサークルやバイトの仲間など、多くの人と出会い、影響を受けてきました。

食品会社で働いてみたいという気持ちから名古屋大学の農学部に入り、学業に勤しむ、、、つもりでしたが、正直なところサークルやバイトに熱中してしまい、勉強をおろそかにしてしまうところもありました。しかし、四年生になり、研究室に配属され自分の研究を始めると新たな発見や自分で考えて研究を進めていく面白さを知りました。その中で先生方や先輩方、同期に何度も助けられながら一つ一つ学んでいきました。

また、四年間で僕に大きく影響を与えたものはサークル活動です。僕は和太鼓や日本舞踊や演劇をするサークルに所属していました。年二回の定期公演に向け、みんなで一丸となって練習しました。ときには悩み、どうしたらよいものが作れるか試行錯誤を繰り返しましたが、舞台のときにみんなで踊ったり、太鼓を叩いたりするときはなにも代えがたい楽しさがありました。

今、四年間を振り返ると、本当に多くの人に支えられてきたのだと思います。何をやるにおいても、一人ではできませんでした。そしてこれからもそれは変わらず、色々な人と出会い、協力しあって生きていくのだと思います。自分が今までお世話になったたくさん

修了に際して

応用分子生命科学専攻 生物有機化学研究分野 宮澤 悠

6年間を振り返ると、わたしはいつでも好奇心の赴くまま自由奔放に生活していました。故郷の群馬県からわざわざ名古屋に引っ越してきたのは、自分の知らない土地に住んでみたいという好奇心からでした。サイクリング部に所属したのも、知らない土地を自分の足で歩いてみたいという願望があったからです。そして、ツーリングがメインの名古屋大学サイクリング部は私にとって最適な選択肢でした。3年間の部活動で、北は北海道から南は九州、果てはスイス、イタリアまで様々な土地を自転車で走りました。長期休暇中の合宿は現地解散現地集合なので、一人で好きなように自転車旅行が出来たことも印象深いです。テントと寝袋を携行して、合宿の集合地に野宿しながら一人で向かうことは、部員みんなで楽しむサイクリングとはまた違ったスリルがありました。

学問に関しても、自分の好きなように勉強できたことは非常に良い経験でした。高校3年生の頃は当時流行った生物学系の新書に魅せられたことが農学部に入る契機でした。しかし、学部の講義で一番面白いと感

じたのは、生物系の学問ではなく有機化学でした。化学反応一つ一つのシンプルさと、それとは対照的に、目的分子をどのように構築するか戦略を考えなければならぬ奥深さが、学部生の私にはとても魅力的に映りました。学部4年生から生物有機化学研究室に所属し、不得手ながらも今日まで3年間研究を続けてこられたことは、研究室のみなさんのご協力があったからこそだと思います。昨年は運よく化学系の企業から内定をいただきました。来年度からは研究職として業務に従事し、研究室で培った化学的な知識や経験を製品という「形」にして社会に還元できればよいと考えています。



平成27年度総会、講演会、懇親会ならびに農学部第11回卒業生および修士第9回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の報告

平成27年6月6日(土)、農学部第3講義室において総会を行いました。平成26年度の事業・決算報告を行った後、平成27年度役員を選出し、平成27年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、粕谷英一氏[九州大学大学院理学研究院生物科学部門准教授、第25回(昭和54年3月)農学部農学科卒業]による講演「動物は食べられるのを避ける」を開催しました。講演終了後、「レストラン花の木」にて懇親会を開催し親睦を深めました。

同日、名古屋大学農学部大会議室において、農学部談話会との共催により農学部第11回卒業生および修士第9回修了生の卒業50周年祝賀会を開催いたしました。17名の卒業生の皆様をはじめ、談話会会員、現職員、および同窓会役員合計54名の出席で盛大に行われました。祝賀会では、同窓会会長 藤井潔氏、ならびに生命農学研究科長・農学部長 川北一人教授よりご挨拶

をいただきました。続いて農学部談話会 柳沼利信先生の乾杯のご発声の後、昼食、歓談となりました。卒業生の方々から学生時代の思い出や近況についてご報告いただき、会はなごやかな雰囲気の中進行いたしました。昼食後は、農学国際協力研究センター長 山内章教授より、「農国センターの過去・現在・未来」と題したご講演をいただきました。

農学部第12回卒業生および修士第10回修了生の50周年記念祝賀会は、平成28年6月4日(土)に開催する予定です。懐かしい先生方にもご参加いただけるかと思っておりますので、万障お繰り合わせの上ご出席ください。後日祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は、農学部同窓会ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

平成27年度名古屋大学農学部学術交流基金助成事業の採択者一覧

(農学部学術交流基金助成は農学部創立50周年記念事業の一環として行なわれています。)

- ・氏 名：坂田 有実
- ・職 名：大学院修士課程（1年）
- ・助成の種類：海外派遣
- ・研究題目等：インドネシアにおける慣習林への REDD プラス導入による社会的影響

人事異動（平成27年1月～12月まで）

日付	氏名	異動内容	職名	
生命農学研究科				
H27.3.1	井上 直子	配置換	講師	特任准教授から
H27.3.16	杉本 美海	採用	助教	研究員から
H27.3.16	DAMNJANOVIC Jasmina	配置換	助教	特任助教から
H27.3.16	大川 妙子	配置換	准教授	トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授から
H27.3.31	黒田 俊一	退職	教授	大阪大学教授へ
H27.3.31	河合 慶親	退職	准教授	徳島大学准教授へ
H27.3.31	海老原 史樹文	退職	教授	関西学院大学教授へ
H27.3.31	淡路 和則	退職	准教授	龍谷大学教授へ
H27.3.31	山田 容三	退職	准教授	愛媛大学教授へ
H27.3.31	田中 利治	定年退職	教授	
H27.3.31	水野 猛	定年退職	教授	
H27.4.1	川北 一人	兼務	研究科長	27.4.1—28.3.31
H27.4.1	下村 吉治	兼務	副研究科長	27.4.1—29.3.31
H27.4.1	山内 章	兼務	専攻長	生物圏資源学専攻 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	池田 素子	兼務	専攻長	生物機構・機能科学専攻 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	松田 幹	兼務	専攻長	応用分子生命科学専攻 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	柘植 尚志	兼務	専攻長	生命技術科学専攻 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	渡邊 彰	兼務	学科長	生物環境科学科 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	谷口 光隆	兼務	学科長	資源生物科学科 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	吉村 徹	兼務	学科長	応用生命科学科 27.4.1—28.3.31
H27.4.1	戸丸 信弘	兼務	センター長	附属フィールド科学教育研究センター 27.4.1—29.3.31
H27.4.1	松田 洋一	兼務	センター長	附属鳥類バイオサイエンス研究センター 27.4.1—29.3.31
H27.4.1	榊原 均	採用	教授	理化学研究所環境資源科学研究センターから
H27.4.1	高橋 宏和	配置換	助教	研究員から
H27.4.1	上野山 賀久	昇格	准教授	助教から
H27.5.31	新美 輝幸	退職	助教	基礎生物学研究所へ
H27.10.1	近藤 始彦	採用	教授	農業・食品産業技術総合研究機構から

日付	氏名	異動内容	職名		
生物センター					
H27.4.1	中園 幹生	兼務	センター長	生物機能開発利用研究センター	27.4.1—29.3.31
農国センター					
H27.3.31	浅沼 修一	定年退職	教授		
H27.4.1	山内 章	兼務	センター長	農学国際教育協力研究センター	27.4.1—29.3.31
H27.10.1	江原 宏	採用	教授	三重大学教授から	

農学部同窓会ホームページ案内

祝賀会、講演会、懇親会の模様、農学部研究室の変遷などに関する情報は農学部同窓会ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。

平成26年度 事業報告

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成26年 6月 7日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、神谷 典明 氏（有限会社 マンキ・ジャパン 取締役社長）による講演『私のインドネシア人生』を開催した。
講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催した。
- 2) 卒業祝賀会の開催
平成27年 3月25日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催した。
- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成27年 3月に発行した。
- 4) 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成27年 6月 6日、名古屋大学農学部大会議室において第11回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話会と共同で開催した。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかった。
- 6) 同窓会名簿の管理
同窓会名簿の更新を行うとともに、要請に基づき名簿情報の提供を行った。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 8) 同窓会費の二重払いへの対応
同窓会費を二重支払いした会員への返金対応を行った。

平成27年度 事業計画案

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成27年 6月 6日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、粕谷 英一 氏による講演『動物は食べられるのを避ける』を開催する。
講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催する。
- 2) 卒業・修了祝賀会の開催
平成28年 3月25日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催予定。
- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成28年 3月に発行予定。
- 4) 卒業50周年記念祝賀会の開催
第12回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を開催予定。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかる。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努める。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。
- 8) 名古屋大学農学部創設発展跡地之碑設置許可の更新
安城市総合運動公園に設置されている石碑の許可期限（平成28年 3月31日）の更新手続きを行う。

名古屋大学農学部同窓会 平成26年度決算

【収入の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会費等	1,233,000	永久会費	600,000	30名
		一般会費	265,000	53名
		寄付金	308,000	70名
		広告掲載費	60,000	4件
卒業50周年祝賀会費	74,000		74,000	37名
総会懇親会費	30,000		30,000	30名
前年度繰越金	24,229,325			
合計	25,566,325			
(実質収入 1,337,000)				

【支出の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,278,180	会報印刷・発送	1,276,452	9200部
		振込手数料	1,728	2件
総会	212,490	講師講演料	30,000	
		講師交通費	2,000	
		役員交通費	40,600	3名
		懇親会費	139,890	
卒業50周年祝賀会	146,572	飲食代	109,750	
		事務費	36,822	案内状印刷・発送
卒業・修了祝賀会	317,236	飲食代	126,972	
		記念品代	189,400	
		振込手数料	864	
役員報酬	132,000	役員報酬	132,000	11名×12,000円
支部支援金	91,512	関東支部	60,000	
		関西支部	30,000	
		振込手数料	1,512	2件
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	17,660			
その他諸費用	424,142	交通費	4,800	学外理事理事会および卒業式出席
		課税納付	16,254	役員報酬・講演料・アルバイト代
		二重払い返却	389,088	二重払い返却および手数料
		談話会出席費	14,000	
次年度繰越金	22,696,533			
合計	25,566,325			
(実質支出 2,869,792)				

名古屋大学農学部同窓会 平成27年度予算

【収入の部】

費目	金額(円)	細目	金額(円)	備考
会費等	1,365,000	永久会費	600,000	30名
		一般会費	300,000	60名
		寄付金	420,000	70名
		広告掲載費	45,000	3件
卒業50周年祝賀会・ 談話会会費	70,000			35名
總會懇親会費	35,000			35名
前年度繰越金	22,696,533			
合計	24,166,533			

【支出の部】

費目	金額(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,300,000			9,000部
總會	241,040	講演料	30,000	
		講師交通費	35,440	
		役員交通費	40,600	3名
		懇親会費	135,000	
卒業50周年祝賀会	140,000	飲食代	100,000	
		事務費	40,000	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	310,000	飲食代	130,000	
		記念品代	180,000	
役員報酬	132,000		132,000	11名×12,000円
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	平成27年度分
		関西支部	30,000	平成27年度分
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	20,000			
予備費	150,000			ホームカミングディ事業：Dr. J. S. Masangkay（本研究科修了生、フィリピン大学名誉教授）の招へい
その他諸費用	53,000	交通費	5,000	学外理事理事会および卒業式出席
		談話会参加費	8,000	2名年2回
		課税納付	20,000	役員報酬・講演料・アルバイト代
		事務費	20,000	発送、コピー
余剰金	21,480,493			
合計	24,166,533			

り圏内であれば、学校、町内会、サークルなど、場所と人（10名以上）を確保すれば、「吹矢の無料体験会」を開催して下さるとのことであった。

次回第19回総会は、本年11月26日（土）13：10～17：10 學士會館302号室で開催の予定である。

支部連絡先 E-mail: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp



名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎（S45農 M）

同窓会関西支部は、発足からすでに10年が過ぎ、私たちの活動は定着してきたように思います。同窓会関西支部には名簿上約800名の同窓生の方がいらっしゃいますが、残念ながら、総会には例年14～15名の方がお集まりになるに留まっております。そこで本年は、総会の運営等について、アンケートでご意見をいただいたり、ご案内など、連絡の徹底のため、現在お使いのE-メールアドレスをご連絡いただくよう葉書きをお願いをしたり、といった活動をいたしました。皆さまのご意見に沿って会の運営を致すとともに、ご連絡に齟齬がないよう努めてまいりたいと思っておりますので、今後とも、ご要望やご意見、ご連絡などがありましたら、文末の事務局へ是非ともお知らせいただきたくお願いいたします。

さて、平成27年11月7日（土）には、第11回の総会を大阪の中央電気倶楽部で行ないました。本年は、名古屋大学農学部大学院生命農学研究科長および農学部長の川北一人先生にお越しいただき、総会を盛り上げていただきました。今回の同窓生のご参加は13名でしたが、腰痛などでしばらく参加出来なかった方が、久しぶりに元気な姿で出席されたり、現職で忙しく過ごしておられる方が駆けつけてくれたりと、皆さまの熱い心でこの同窓会が盛り上がってきていると身を持って感じ、感激いたしました。

今年も例年通り、午前10時から総会議事および講演、12時から午後3時まで懇親会といったスケジュールで同窓会を進めましたが、開催場所は昨年までの大

阪弥生会館が、閉鎖となったため、中央電気倶楽部に変更となりました。大阪梅田から南にすこし歩いていただかねばならず、不便となりましたが、ご理解頂きたく思っております。来年も、この場所で開催しようと思っておりますが、4～5年前に龍谷大学のキャンパスをお借りして行ないました同窓会はとても評判がよく、研究施設や様々な現地施設を紹介頂きながらの同窓会というもの、そのような場所が見つければ、実施したいと考えております。

総会議事のあと、前述いたしましたように、名古屋大学から川北先生にお越しいただきましたので、大学運営の現状や問題点、様々な課題への取組状況をお話いただきました。大学も法人化されて、しばらく経ちましたが、平成28年度から、法人化の第三期に入ることので、各大学とも特色を出しながら、しのぎを削っていくのお話に、大学運営の難しさを感じるとともに、農学部の益々のご発展を祈らずにはおられませんでした。名古屋大学は平成27年4月に就任された松尾総長のもと、イノベーション、グローバル化、社会への貢献という三つのキーワードのもと、大学の改革を進めておられるとのこと、頼もしく感じました。農学部は、タイやカンボジアとの交流を進め、海外実地研修を進めておられるとのこと、学生が積極的に研修に参加し、現地での経験を通じて、大きく成長している様子を紹介され、感銘を受けました。最近の学生は、海外留学にあまり積極的ではないと心配しておりましたが、このように機会があれば、前向きに取り組んでいく学生が多いとお話に、日本の将来に明るさを感じました。また、農学部は、アジア諸国でのサテライトキャンパスの設立に積極的に取り組んでおられ、すでにカンボジア、ラオス、フィリピンなどに拠点を作っておられるとのことや、設立にあたって、農学部の大先輩が東南アジア諸国で築いてこられた絆が大きな足がかりになっていることをご説明いただき、農学部の伝統が生きていると感激しました。

午後には、例年のごとく楽しい懇親会を行ないました。参加された全ての方に、近況をご報告いただいておりますが、皆さま、それぞれの方のお話に含蓄があり、それぞれの分野、あるいはさまざまな状況で力強く生きておられる姿が目に見え、勉強にもなり、とても楽しく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。名古屋大学農学部の安城のキャンパスや東山のキャンパスを経験した者同士が、その一点でのみで繋がって、お互いの情報を交換し、励ましあい、歓談することは、何度経験しても素晴らしいものだと思

じております。

平成28年度と同窓会総会は11月5日(土)に予定いたしました。会場は前年と同じ、中央電気倶楽部を予約しております。是非とも、御気楽にご参加していただきたく、お待ちしております。これまでご参加の経験のない方、お知り合いがいなくて参加しづらい方、初めての参加でも全くご心配はいりません。すぐに打ち解けて楽しいひと時を過ごしていただけるものと確信いたしております。例年、朝10時から午後3時まで、大変長い同窓会となっております。今後も、この進め方を予定しておりますが、午前のみのご参加、あるいは午後のみのご参加でも結構ですので、事務局へご連絡ください。なお、次回総会の一ヶ月ない一ヶ月半まえには、総会案内をE-メールで連絡させていただきますが、連絡が届きませんようでしたら、事務局宛、その旨、お知らせ頂きたくお願い申し上げます。(事務局連絡先) 寺前朋浩

〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23

E-メール: rikatomo@ares.eonet.ne.jp



名大遠州会だより

遠州会農学部幹事 佐々木 健 (平成5年畜産)

名大遠州会は、静岡県西部(大井川以西)に居住または勤務する名古屋大学、大学院もしくはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。平成27年は6月13日(土)に開催されましたが、同窓会に先立って、15時より静岡文芸大学にて、2014年にノーベル賞を受賞した天野浩名古屋大学大学院教授の特別講演会を開催しました。その後、オークラアクトシティホテル浜松に場所を移し、名古屋から松尾総長、伊藤全学同窓会代表幹事、さらに特別講演をお願いした天野教授を来賓としてお迎えし、約100名の会員とともに18時より第20回同窓会を盛大に開催しました。

会場では、卒業年代の近いグループで指定されたテーブルに着き、庄田会長の挨拶に続いて、松尾総長、伊藤代表幹事からのご挨拶を受け、大久保名誉会長の乾杯発声で懇親会を開始しました。懇親会では、世代と学部を越えた幅広い交流が盛んに行われ、さらに、昨年好評だったビンゴゲームを今年も行って同窓会は大いに盛り上がりました。そして最後に恒例の集合写真を撮影し、来年の同窓会への出席を皆で約束して、21時前に懇親会は終了となりました。

さて、本年は第11回遠州会総会&第21回同窓会懇親会をオークラアクトシティホテル浜松にて、6月18日(土)16:40に開催予定です。案内状は例年通り4月上旬頃に郵送しますので、奮っての御参加をよろしくお願いいたします。

連絡先: 遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 解剖学講座 神経機能学分野

Tel: 053-435-2293 Fax: 053-435-2290

Email: tsasaki@hama-med.ac.jp



農学部談話会だより

農学部談話会世話人代表 柳沼 利信

農学部談話会は2002（平成14）年に、「農学部OB同志の親睦、現役の方々との交流を計るために気軽に歓談する機会を」との趣旨で当時の名誉教授を中心に設立されました。会員は農学部在籍した教員・職員および現役の農学部長・研究科長、並びに教職員が主ですが、この輪をさらに同窓生にも広げ、「農学部と親しむ会」として発展することを願っています。この談話会は毎年3月と11月の第2週金曜日の夕刻に農学部隣接するグリーンサロン東山「花の木」において例会を、また6月には農学部同窓会と共催し、農学部・生命農学研究科の現状報告および話題提供者の講演を柱に開催しています。話題提供には「農学と社会」の視点に立ち、できるだけ時宜を得たものをと心がけています。本年の企画のうち、3月の第42回農学部談話会、次いで6月の農学部同窓会との共催による第43回農学部談話会については、以下のように開催を計画しています。

同窓生諸氏の積極的なご参加を募り、農学部談話会を盛り上げていただくことを期待しています。

記

第42回農学部談話会

日時：3月11日（金）、午後5時～7時

場所：名古屋大学キャンパス内グリーンサロン東山
「花の木」

会費：夕食代を含め2,000円

農学部の近況：川北一人 生命農学研究科長

講演：「ゴマの科学—温故知新の展開—」

千葉大学名誉教授 田代 亨 氏

第43回農学部談話会

（農学部同窓会主催による第12回農学部卒業・修了50周年記念祝賀会と共催）

日時：6月4日（土）、午前11時～午後1時30分

場所：名古屋大学農学部大会議室

会費：昼食代を含め2,000円

記念講演：「国立大学法人：荒海の中の航海」（仮題）

名古屋大学副総長 前島 正義 氏

談話会についてのお問合せ等は世話人代表の柳沼利信（E-mail：yaginut@agr.nagoya-u.ac.jp）までお寄せ下さい。

本年6月以降は、世話人代表は服部重昭（E-mail：s-hattori@ouj.ac.jp）になります。

農学部の話題 —2015.01.01-2015.12.31—

（「名大トピックス」より許可を得て農学部関係の一部を記載）

- ・第74回中日農業賞：講評 生源寺眞一生命農学研究科教授 2015.2.20中日（朝刊）
- ・芦荊基行生物機能開発利用研究センター教授の遺伝子技術を活用し途上国の食料問題に挑む研究が、東京書籍の中学校1年の理科の教科書に取り上げられた 2015.4.7中日（朝刊）
- ・女性研究者つなく 愛知の輪：東村副理事・生命農学研究科教授は「多様な働き方ができる社会になれば、働き過ぎの男性にとっても、幸せな社会になると思う」と語る 2015.4.11朝日（朝刊）
- ・新聞わーくシート：芦荊基行生物機能開発利用研究センター教授の遺伝子技術を活用し途上国の食料問題に挑む研究が、東京書籍の中学校1年の理科の教科書に取り上げられた 2015.4.26中日（朝刊）
- ・第30回博物館企画展めだかの学校—メダカ先生（山本時男）と名古屋大学のメダカ研究—特別講演会「メダカの色はなぜ変わる」開催：9日 橋本寿史生物機能開発利用研究センター助教が講演 2015.4.28中日（朝刊）
- ・伊藤正樹生命農学研究科准教授らのグループは、植物の細胞分裂を支配する新しい調節遺伝子を発見 2015.6.13中日（朝刊）
- ・名古屋大学遠州会第20回同窓会と天野 浩教授記念講演開催：13日 天野 浩工学研究科教授が講演し「世界の問題を見据え、社会貢献に全力で取り組みたい」と語る 2015.6.14静岡新聞
- ・大場裕一生命農学研究科助教らのグループは一部のキノコが緑色に光る仕組みについて原因物質を特定 2015.6.21中日（朝刊）

卒業生からの寄稿

「第11回農学部卒業50周年記念祝賀会」に参加して

住田 智也 (昭和40年農(園芸)卒)

先般の心温まるおもてなしを受けて、ありがとうございました。特に、50年ぶりに、同窓の皆さんとの懐かしい再会は、真に、『ビックリ・ボン』で、交流を復活しています。

卒後の私は、縁なき存在となった大学ですが、身近な存在となりました。安城卒業の我々の若き時代の学究態度は、東山キャンパスの姿と同じと確認しました。製パン企業で世界の技術分野を学び応用した老翁は、現役応援団です。『年年歳歳花相似、歳歳年年人不同』50年の風雪経て、有機栽培自家菜園・日本蜜蜂都市養蜂・パン試作と試行錯誤の日々です。

後輩の皆様の活躍を願っています。

名古屋大学農学部林産学科 創立50周年記念祝賀会

7月4日(土)に野依記念学術交流会館にて、農学部林産学科創立50周年記念祝賀会が開催され、林産学科の先生方(OB並びに現役)、卒業生、現役学生、総勢137名が集まった。冒頭、農学部代表で川北一人氏(現農学部長)、卒業生代表で前田和彦氏(S44年卒)両名が挨拶に立たれ、お祝いの言葉を述べられた。続いて、沖修司氏(林学 S54年卒 林野庁次長)、鈴木滋彦氏(S51年卒 静岡大学副学長)、澤木良次氏(S45年卒 大建工業㈱代表取締役会長)の御三方が「今後の国産材の可能性について」「林産学から木質科学、そして木質バイオマス科学へ」「同窓生の絆について」をテーマにそれぞれ基調講演を行った。その後、林産学科の歴史紹介、各研究室紹介、パネルディスカッション(テーマ「これからの林産学と林産業のあり方」写真)と盛りだくさんの内容で、大いに会場は盛り上がった。

最後に、懇親会が滝欽二氏(S44年卒)の乾杯発声でスタートし、小西千晶さん(H2年卒)のバイオリン演奏が優雅な雰囲気演出中、参加者は久しぶりの再会を喜び、互いに親睦を深めた。締めの挨拶は寺島典二氏、その後に恒例の深田卓朗氏(S45年卒)のエールで、大盛況の内に閉幕した。(竹原章宏・S63卒)



同窓会関連企画「フィリピンとの交流を振り返って」講演会の報告

平成27年10月15日農学部大会議室において、生命農学研究科との共催により、Dr. Cristino M. Collado（名古屋大学同窓会フィリピン支部長）と Dr. Joseph S. Masangkay 氏（フィリピン大学名誉教授）をお招きし、講演会を開催しました。今回の講演会は、平成27年10月17日に行われた名古屋大学ホームカミングデーに、Collado 氏はフィリピン支部長として、また、Masangkay 氏は国際交流顕彰の授賞者として出席される機会を活かして企画しました。

Collado 氏はフィリピンからの留学生としては初めて1982年に名古屋大学農学部で博士学位を取得されています。また、Masangkay 氏は名古屋大学農学部へのフィリピンからの最初の留学生で、1983年に博士学位を取得されています。帰国後、Collado 氏はフィリピン農務省主席をはじめとする数々の要職を務められました。また Masangkay 氏はフィリピン大学ロスバニョス校の教授として数々の業績をあげ、生命農学研究科の外部評価委員も努められたこともあります。

講演会では、齋藤哲夫名誉教授から両者についての

ご紹介後、Collado 氏からは「From Meidai to Manila; My Professional Journey」と題して、名大での学位取得後、フィリピンへ帰国されてからの半生についてお話を頂きました。また、Masangkay 氏からは「My Unforgettable Experience in Japan」と題して、名大に留学された理由や名大時代の思い出についてお話を頂きました。約25名の参加者（内フィリピンからの留学生8名）からは、名大とフィリピンとの関連や留学後の進路決定についてなど、さまざまな質問があり白熱した議論が繰り広げられました。



Dr. Cristino M. Collado



Dr. Joseph S. Masangkay

同総会寄付者一覧

(2015.2.1 ~ 2016.1.31)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青木 瑞希	旭 正	五十嵐(山本)学	石黒 哲	石田 快
伊藤 憲	伊藤 文郎	今井 正樹	岩見 雅史	内海 環
梅村(永津)武夫	大岩 仁志	大谷 勉	大貫陽一郎	大根 保則
大野 光義	大橋 偉郎	大村 百合	小川 久光	沖本 光徳
奥谷 冬穂	加藤 壽郎	加藤 信彦	加藤 満	金光 桂二
亀江 幸二	川村 則夫	木村(鈴木)洋二	木村李花子	久保田勝美
小池志乃武	近藤準之助	坂口(葛原)有紀子	笹尾 幸夫	志水 俊夫
清水 直貴	新海 義秋	杉山 邦雄	杉山 茂樹	須藤 千春
平 賢二	高田 誠	高橋 壮	高橋(山崎)登枝子	高倍 鉄子
高村 忠伸	多賀 正明	竹原 章宏	竹村 富男	舘本 勲武
谷口 武	種石 始弘	塚本 烈史	手塚 信夫	豊島 義之
中野 元	中村(高橋)秀夫	並河 鷹夫	成瀬 和也	新美 安信
西尾 健	西村 弘行	早川純一郎	坂野 大義	平井 篤志
平岡 聖樹	平島 昭和	平野 孝次	古澤 弘道	古田 隆則
細井(井上)力	堀川 祥生	松尾(鈴木)綾	松本(寺島)正	馬路(山谷)明子
馬路 泰蔵	馬淵 都子	三浦 則夫	水野 孝	水野(渡邊)涉
水上(村上)優子	森 博徳	山口 章	山口 英夫	由比 進
横井 伸二	横井 智規	渡辺 広次	林産学科創立50周年記念祝賀会実行委員会	

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改定を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお答えしてまいりたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

全学同窓会について

名古屋大学の同窓生等の社会的な活動について広く情報共有し、大学と同窓生等のつながりをより強めるために、また専門分野を超えての情報交流が以前にも増して重要となっているなどの背景から、名古屋大学全学同窓会は設立され、部局同窓会と連携しながら部局横断的な活動を行っています。設立は平成14年で、現在の会長は、豊田章一郎氏（トヨタ自動車株式会社名誉会長）です。大学の社会へ向けての情報発信や、社会からの研究教育活動への参加や支援を受けることがますます強く求められる今日、社会とのパイプを持つ全学同窓会は、大学の発展にとってもその役割が期待されています。農学部同窓会からは、3名が全学同窓会幹事会に参加し、また柴田和憲氏（アサヒビール株式会社常務取締役 生産本部長；S54農芸化学科卒）と生命農学研究科長には評議員を勤めて頂いています。平成27年度は以下のような活動を行いました。

1. 社会貢献人材バンクの名簿整備

大学が運営する「卒業生等名簿システム」の整備と運営に対する協力や、住所等移動データの整備とそのデータの部局同窓会への提供などが行われました。

2. 財政基盤整備

支援会員の募集や支援会費自動引落利用者の拡充、同窓会カード（クレジットカード）の普及と優待店舗の開拓、および活動協力金に関する様々な取り組みが行われました。

3. 拠点形成

関東支部、遠州会ならびに関西支部との連携・支援、および海外支部の新規設立と各海外支部との連携強化について取り組みが行われました。関東支部や遠州会では天野教授の特別講演会が開催されました。既設の支部（韓国、バングラディッシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウ

ズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシアおよびフィリピン）に加えて、平成27年度にはマレーシア支部が新たに設立され、28年2月21日にクアラルンプールで設立総会が開かれました。

4. 運営基盤の整備

10月17日の名古屋大学ホームカミングデーにあわせ評議員会が開催されました。その他、部局同窓会やクラブ活動同窓会との連携する活動が行われました。12月8日には、NEXCO 中日本社長である宮池克人（名古屋大学全学同窓会副会長）を招き「高速道路 四方山話」と題した講演会を開催するとともに夕食会が行われました。

5. 学生支援

名大祭への協力、同窓生が講師を務める寄付講義「キャリア形成論」の支援、「名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場、優勝へ向けての人力飛行機の作製、運用」の支援や「名古屋大学フォーミュラチーム FEM EV プロジェクト」への支援等が行われました。また、豊田会長が入学式・卒業式へ出席し、祝辞を述べました。卒業式総代学生用アカデミックガウン41着を各学部・研究科へ寄贈しました。

6. 大学支援

ホームカミングデーの共催と支援を行いました。また、全学同窓会は毎年、「大学支援事業」として学生活動、就職支援事業、本部・部局事業（講演会、寄付講義など）、およびその他の同窓会理念に沿った事業の支援を行っています。上記、学生支援も一部はその一環として行われています。

7. 広報活動

メールマガジンや Newsletter の発行、ホームページによる部局同窓会行事、OB による行事等の紹介などが行われました。

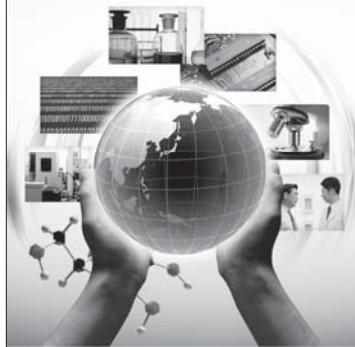
各種高圧ガス及び設備の設計・施工
高圧ガス関連機器・各種実験機器



有限会社
アルファシステム

〒465-0005 名古屋市名東区香流1-415
TEL. 052-776-4567 FAX. 052-776-4568
<http://www.alphasystem.biz>

CaHC



研究開発
支援企業として、
「産・学・官・医」を
支えています。

株式会社カーゴは、「製造と努力」
「品質と信頼」の企業理念のもと、
試薬、分析機器、検査薬、工業薬品などの
販売を通して社会に貢献しています。
研究開発支援企業として
あらゆるニーズにお応えいたします。

株式会社 カーゴ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-5 TEL.052-971-6333(内)
営業第一課 TEL.052-971-6771 営業第二課 TEL.052-971-6581
営業第三課 TEL.052-924-8661 研究所TEL.052-461-1380
お客様センター TEL.052-431-6861 検査センター TEL.052-308-8151
工業薬品部 TEL.052-236-5531 東京営業部 TEL.03-3868-3961

<http://www.cahc.co.jp>

コミュニケーションの進化に対応する

株式会社 **クワイックス**
KWIX

URL <http://www.kwix.co.jp/>

印刷を核に情報産業を担う企業として、
新時代のコミュニケーションの輪を
拡げています。

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200
■名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410

研究設備・分析機器・光学機器・分析器具

主要特約代理店

オ リ ン パ ス パナソニック ヘルスケア
カ ー ル ツ ア イ ス GEヘルスケア・ジャパン
ヤ マ ト 科 学 ライフテクノロジーズジャパン
旭 硝 子 ア ズ ワ ン

株式会社 **木下理化**

〒466-0035
名古屋市昭和区松風町1丁目3番地の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本 社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

竹本油脂の挑戦は

ごま油、そしてスペシャリティケミカルへ。

食卓から宇宙までひろがっています。

- ◆ ご ま 関 連 食 品 ◆
- ◆ 繊 維 工 業 用 化 学 品 ◆
- ◆ 土 木 ・ 建 築 用 化 学 品 ◆
- ◆ 農 業 用 化 学 品 ◆
- ◆ 電 子 ・ 情 報 関 連 化 学 品 ◆
- ◆ 合 成 樹 脂 ・ フィルム用化学品 ◆



竹本油脂株式会社

TAKEMOTO OIL&FAT CO.,LTD.

◆本社・研究所 愛知県蒲郡市港町2-5
◆資本金/売上 1億円/719億円【2015年度】
◆社 員 数 570名(うち名大 生命農学出身32名)
◆国内/海外拠点 東京・大阪・福岡/米国・中国・台湾・韓国・インド
<http://www.takemoto.co.jp/>

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社 

【本社】〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイドー
久保田商事	アトニー
名古屋三立製作所	アドバンテック東洋

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp

ミツカンの酢づくりの歴史や、食文化の魅力にふれ、
楽しみ学べる体験型博物館です。



mim
MIZKAN MUSEUM



Nagoya mim 愛知県岡崎市 中沢町2-4
Handa
<http://www.mizkan.co.jp/mim/>

mizkan

pokka sapporo

LEMON

キレイな人は、
切り替え上手。

CLUTCH



農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、
現在約9,500部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会
の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。